

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800652		
法人名	医療法人さくら会		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	栃木県小山市大字卒島98 (電話) 0285-32-1121		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月25日	評価確定日	平成22年2月16日

【情報提供票より】(平成21年12月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤8人(うち兼務 人), 非常勤 人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	・理美容代—2,000円, おむつ代—パット50円等 ・おこづかい—20,000円(医療費、個人購入物に使用)	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無(敷金・礼金として。礼金は返却なし。敷金は退居時のクリーニング・補修後に清算)	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	150円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年12月11日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	6名		要介護2	3名	
要介護3	名		要介護4	名	
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人さくら会 さくらのクリニック		
---------	--------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは小山市西部ののどかな田園地帯に位置している。平成20年には法人の名称が変わり、ホーム名も「さくらの家」となっている。隣地には同法人で協力医療機関になっているクリニックと介護老人保健施設があり、医師・看護師・栄養士等の協力を得ながら、入居者の健康管理を行う等、事業所間での連携が図られている。ホームでは定期的に入居者と共に地域の生きがいデイサービスに参加しており、地域の住民との交流にも積極的に取り組んでいるホームである。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は職員を含め、誰でも見られるように玄関入り口に掲示しており、職員会議でも管理者から評価結果が職員に伝えられる等、評価を活かした取組を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員同士で業務を振り返りながら確認を行い、分担して記入したものをさらに管理者が意見を出しながらまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年の運営推進会議は開催されていないが、地域の交流の場である生きがいデイサービスの終了後に、老人会長、家族、民生委員、健康推進員にホームの状況を報告している。その内容については、地域の公民館(支所)と市担当職員へ提出を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談受付機関として、ホームの窓口担当者の管理者と市の担当部署が明記されており、入居時にも家族に説明をしている他、家族の来所時などに意見や要望を表しやすい雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や地域の老人会には入会していないが、地域の交流の場として毎週金曜日に開催されている、市主催の「生きがいデイサービス」には入居者がそろって参加している。法人で開催するお祭り等には地域の住民の参加もあり、入居者も一緒に楽しんでおり、地域との交流に努めている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の「やさしい医療、やさしい介護」と5つの基本方針「信頼・満足・専門・連携・誇り」を基に、ホームとしても「一人ひとりを大切に、ゆったりとした生活を提供します」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念及びホームの理念は玄関に掲示している他、すべての職員は法人及びホームの理念を把握・共有しており、入居者の個性を尊重したサービスの提供に努め、理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域の老人会には入会していないが、地域の交流の場として毎週金曜日に開催されている、市主催の「生きがいデイサービス」には入居者がそろって参加している。法人で開催するお祭り等には地域の住民の参加もあることから、入居者も一緒に楽しんでおり、地域との交流に努めている。	○	地域で開催されている行事等には積極的に参加しており、地域の住民との交流が効果的に行われているが、今後は、地域密着型サービスの観点からも、自治会や老人会、地域行事や地域活動等への参加や近隣の住民がホームを訪ねて来たりというような双方向的な交流が拡充していく取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果は職員を含め、誰でも見られるように玄関入り口に掲示しており、職員会議でも管理者から評価結果が職員に伝えられる等、評価を活かした取組みを行っている。今回の自己評価は、職員同士で業務を振り返りながら確認を行い、分担して記入したものをさらに管理者が意見を出しながらまとめた。		

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の運営推進会議は開催されていないが、地域の交流の場である生きがいデイサービスの終了後に、老人会長、家族、民生委員、健康推進員にホームの状況を報告している。その内容については、地域の公民館（支所）と市担当職員へ提出を行っている。	○	定期的に運営推進会議を開催し、市担当職員や地域包括支援センター職員、自治会長等の参加を依頼する他、ホームの質の向上をより図っていくためにも、運営推進会議の参加者や議題等についても検討していくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生きがいデイサービスの場で話し合ったこと等を市担当職員へ報告をしたり、ホームの運営や提出物等についても電話や訪問して相談に乗ってもらっている。また、市等の声かけにより、市内のグループホーム事業者の集まりが近々予定されている。	○	今後は、運営推進会議の参加依頼やホームの現状、課題等の情報提供を市担当職員に行うなど、市と交流する機会をつくり、サービスの質の向上を共に図れるような取組みに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活状況や健康状態の家族への報告は、月1回利用料の支払いに来所した際に報告しており、預かり金の領収書や小遣い帳の返却を行っている。また、入居者の生活状況や行事等を掲載した、法人の広報誌やホーム便り「さくらの家」を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付機関として、ホームの窓口担当者の管理者と市の担当部署が明記されており、入居時に家族に説明をしている他、家族の来所時などに意見や要望を表しやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は、グループホームでは入居者と職員の馴染みの関係は重要であると考えていることから、職員の異動は極力抑えている。やむを得ない理由から異動等がある場合には、入居者一人ひとりの状態に合わせた伝え方で説明を行い、家族には口頭で報告を行っている。		

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で職種や経験年数等を考慮した内部研修が毎月開催されている他、外部研修にもできるかぎり職員が参加できるように努めている。職員会議でも新たな勉強会に取り組んでいる。	○	今年度は職員体制の関係から、外部研修への参加の機会が無かったが、サービスの質の向上や職員の意欲の向上のためにも、外部研修への参加の機会を設けられるような取組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入している他、市内のケアマネジャー研修等にも参加しており、管理者は他事業所の管理者と顔見知りになっている。1月には市等の呼びかけにより、市内の同業者の交流会が開かれる事になっており、参加する予定である。	○	市内の同業者間での交流会が開催されることから、管理者はもとより職員も交代で参加し、他事業所職員との交流をとおして、ホームでのサービスの質の向上につながるよう期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には事前に本人や家族にホームを見学してもらい、ホームでの暮らしぶり等の説明や雰囲気を感じてもらっている。希望者には体験入居も行っている。入居後は家族にホームの生活状況や健康状態等を報告をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から昔の生活様式を教えてもらったり、一緒にカレンダーや季節の装飾を作り、飾る場所等を話し合う等、入居者と共に過ごし支えあう関係を築いている。		

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでは入居者各々の生活リズムを尊重しており、希望や意向に添えるよう努めている。意思表示の困難な場合には、家族からの協力を得る他、馴染みの関係から意向の把握に努めており、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、入居時に本人及び家族から要望等を聞き、本人及び家族も交えた担当者会議を開き、それらを反映させた本人本位の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、介護計画の有効期間が近づいた段階において、再度、本人及び家族を交えた担当者会議を開いたうえで見直しを行っている。また、3か月に1回のモニタリングを行い、本人のADLの状態やその他の変化等を考慮し、状態に応じて随時新しい介護計画の作成も行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望に応じて、外出や買物、散歩等の柔軟な対応に努めている他、法人で開催する催し事に参加する等、多機能性を活かした支援をしている。		

グループホームさくらの家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関でもある同法人のクリニックから月2回の往診がある。本人の状態に変化が生じた場合には、常に適切な医療が提供できるよう連携に努めている。協力医療機関以外での受診には家族に付添いをお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応については、入居時に家族には重度化した場合のホームでの方針を説明している。実際に重度化した場合には、本人や家族の意向を十分考慮しながら、主治医や看護師にも相談を行い、入院や退居等の方法をとっている。	○	今後、重度化に伴う看取りも含めた幅広い要望に応えられるような取組みの構築に向け、全職員で検討を重ねて行くことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は入居者を「さん」付けで呼んでおり、入居者一人ひとりに丁寧でゆったりとした声掛けを行っている。個人の記録等は、事務所の鍵のかかる場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは、毎日の日課は特に設けていない。入居者一人ひとりに合わせた生活支援に努めており、入浴時間や外出等は入居者の希望により変更する事もある。入居者は各々の居室で過ごす事が多く、個々の時間を大切に過ごせるようにしている。		

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、職員は入居者の食事の支援を行っており、入居者の食事が終わった後に持参した弁当等を食べている。行事がある時には、職員は入居者と一緒に食事やお茶を摂る事もあるが、通常は別々に食べている。	○	職員の勤務体制や休憩時間の確保等もあると思われるが、職員も入居者と共に生活する者として、入居者と一緒と同じ物を食べられるよう検討していくことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金曜日の午前及び午後に入浴をしている。入居者によっては、入浴時間の長い人や拒否傾向の強い人等がいるが、入居者各々の希望に合わせてゆったりとした入浴支援に努めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵画の上手な人や裁縫などの手先の器用な入居者がいるため、職員が教えてもらうこともある。職員と一緒に食材の買出しに出かけたり、法人主催のクリスマス会ではダンスを楽しむ入居者等もあり、一人ひとりが趣味や特技を活かして、楽しみごとや気晴らしができるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺は田園地帯になっており、天気の良い日は散歩をしたり、戸外でお茶を飲んだり、車で買い物や花見、公園に出かけている。また、入居者から買い物の希望があれば、職員が同行して出かけている等、希望に沿った外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は自動的に施錠されるようになっている。前回の評価後に鍵をかけない支援に取り組んだが、入居者が外に出てしまい、危険が想定されたため、家族の要望や了解もあり、現在は施錠をしている。居室の窓は施錠されていない。	○	玄関が事務所や職員から目に届きにくい場所にあることから、入居者及び家族の理解の上で施錠しているが、鍵をかけないケアの実践に向けて、今後も職員間で意見を出し合い検討されることを期待したい。

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人が行う年2回の消防訓練に参加している他、ホームとしても独自の消防訓練を消防署の協力の下で実施を予定している。	○	法人の定期的な訓練への参加の他、ホーム独自の訓練も実施するとの事であるが、職員が少なくなる夜間時の想定や消防団や地域住民からの協力体制の構築に向けた取り組みにも期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導により糖尿食・腎臓食の管理がされている。食材は宅配のカロリー計算がされているものを利用している。一人ひとりの体重チェックや水分摂取も記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビがゆったりと見られるようにソファや椅子が置いてある他、花も飾られている。壁面には入居者の手づくりカレンダーや絵画等が飾ってある。食堂の前にはサンルームの洗濯物干しの場所があり明るい。中庭もあり、そこで入居者が食後の一服ができるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、入居者各々が机、椅子、テレビ、電子ピアノ、日本人形等の使い慣れた物や好みの物を持ち込んでおり、ゆったりと居室で過ごされている入居者が多い。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。